

報告事項カ

平成19年度鳥取県立高等学校入学者選抜学力検査結果について

平成19年度鳥取県立高等学校入学者選抜学力検査結果について、別紙のとおり報告します。

平成19年6月28日

鳥取県教育委員会教育長 中永 廣樹

平成19年度

鳥取県立高等学校入学者選抜学力検査結果

鳥取県教育委員会

1 教科別得点の平均点及び総得点の平均点
(全日制課程)

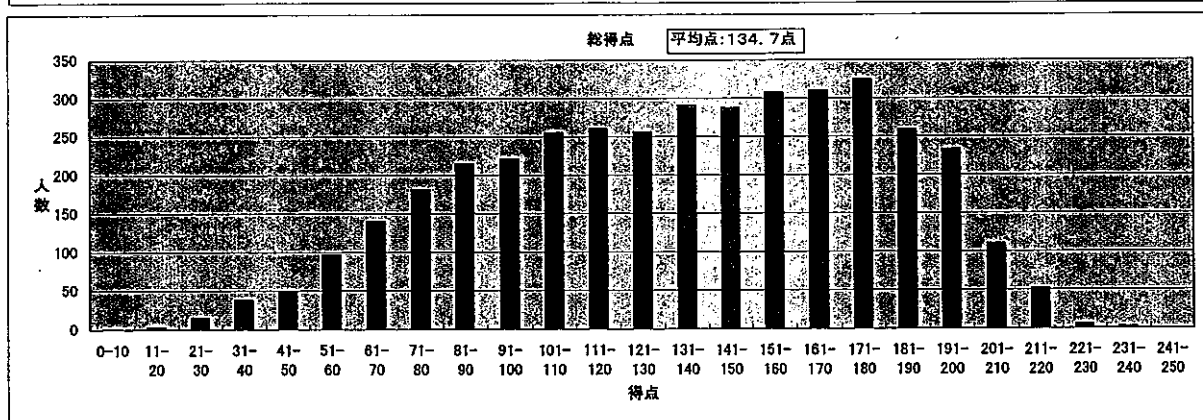
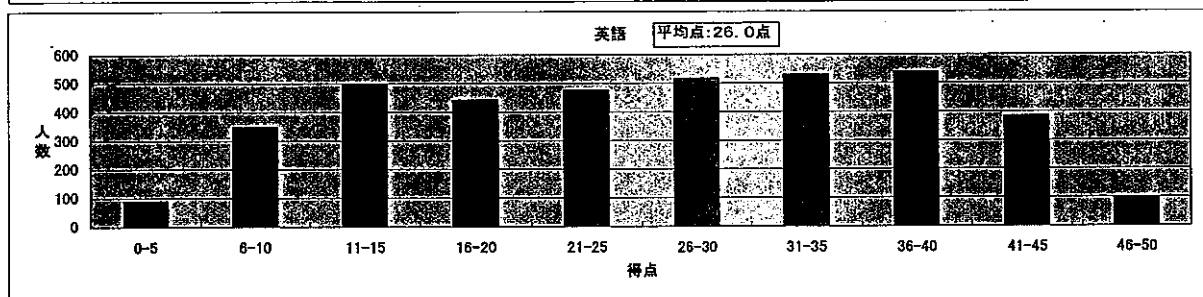
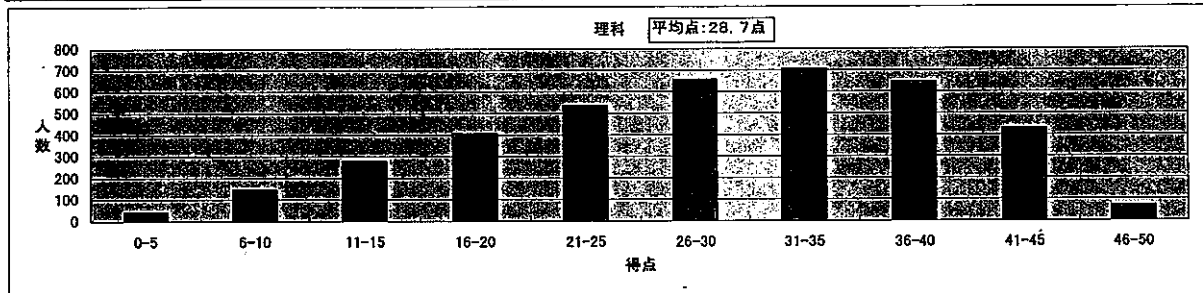
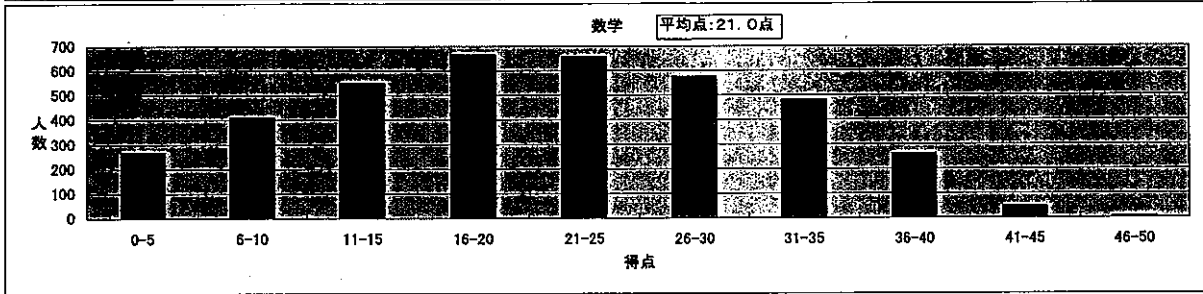
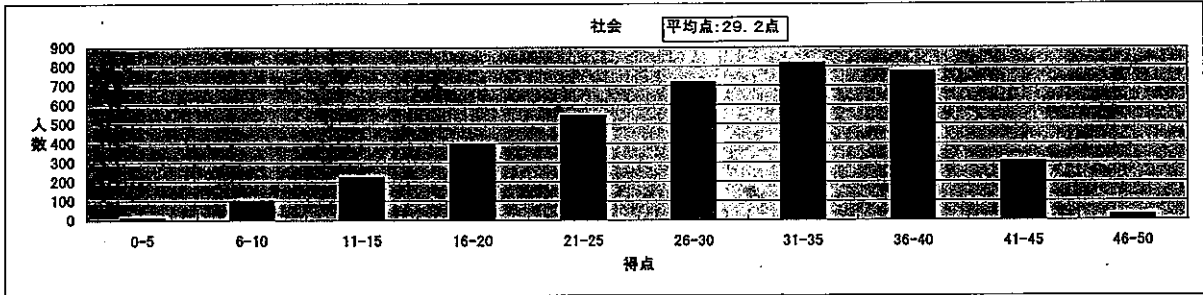
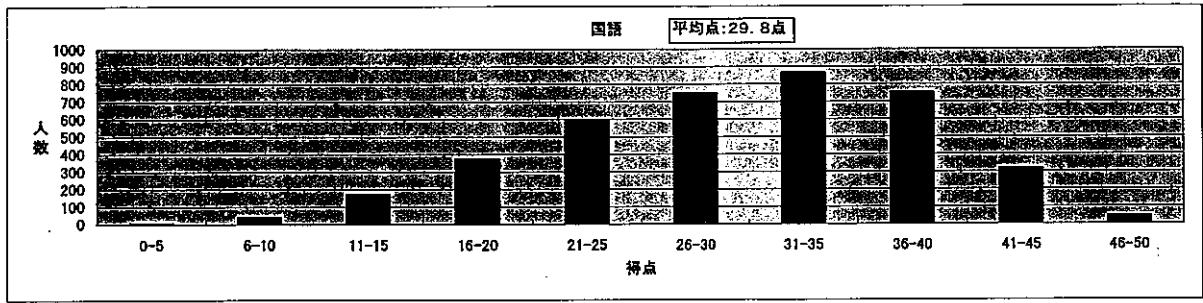
年度	教科名	国語	社会	数学	理科	英語	総得点	備考
平成19年度	平均点	29.8	29.2	21.0	28.7	26.0	134.7	各教科50点 満点 合計250点

学力検査受検者数 3,909人

(参考)

年度	教科名	国語	社会	数学	理科	英語	総得点	備考
平成18年度	平均点	30.6	24.7	17.6	25.7	28.3	127.0	各教科50点 満点 合計250点
平成17年度	平均点	24.9	30.5	22.9	25.9	28.1	132.2	各教科50点 満点 合計250点
平成16年度	平均点	32.8	28.4	27.6	32.0	27.8	148.6	各教科50点 満点 合計250点
平成15年度	平均点	34.6	29.2	23.9	28.1	27.3	143.1	各教科50点 満点 合計250点
平成14年度	平均点	28.8	28.6	25.9	26.3	28.2	137.6	各教科50点 満点 合計250点
平成13年度	平均点	31.1	31.2	28.4	30.8	28.6	151.1	各教科50点 満点 合計250点

2 教科別得点の度数分布及び総得点の度数分布(全日制課程)



得点	教科	国語	社会	数学	理科	英語
0 ~ 5		8	11	267	42	89
6 ~ 10		39	100	408	145	346
11 ~ 15		172	223	550	278	498
16 ~ 20		372	396	664	405	441
21 ~ 25		592	544	654	536	474
26 ~ 30		748	715	574	655	515
31 ~ 35		865	816	480	706	528
36 ~ 40		753	773	260	644	538
41 ~ 45		318	304	46	428	383
46 ~ 50		42	27	6	70	97
受検者数		3,909	3,909	3,909	3,909	3,909

総得点	人数
0 ~ 10	1
11 ~ 20	3
21 ~ 30	15
31 ~ 40	38
41 ~ 50	48
51 ~ 60	97
61 ~ 70	140
71 ~ 80	181
81 ~ 90	215
91 ~ 100	221
101 ~ 110	255
111 ~ 120	260
121 ~ 130	256
131 ~ 140	290
141 ~ 150	287
151 ~ 160	307
161 ~ 170	310
171 ~ 180	324
181 ~ 190	259
191 ~ 200	233
201 ~ 210	110
211 ~ 220	52
221 ~ 230	5
231 ~ 240	2
241 ~ 250	0
受検者数	3,909

3 教科別の学力検査結果の概要

高等学校課

国 語

- 1 基礎的な国語力の定着を見るための小問題集合形式の問題については、正答率は概ね高い。しかし、正答率が97%を超える問いもある一方で、四字熟語を完成する問題及び同訓異義語の問題は正答率が50%台に止まった。
- 2 説明文の内容読解について、選択肢で答える問いでは概ね正答率が高いが、字数指定で理由を書く問いではかなり低い。語句の意味の理解が不足していることと、理由ときっかけの違いが十分理解できていなかったためと考えられる。また、「能動」の対義語を答えさせる問題の正答率は低く、「能動」という語が受検生にとってなじみの薄い語であったためかもしれない。
- 3 古典について、歴史的かなづかいを現代かなづかいに改める基礎的な問いは、正答率が高い。内容を問う問題では、問二、問四の正答率がいずれも約70%と高いのに、問五では40%台まで下がってしまっている。これは、「臆して」の語の意味を理解していないことに加えて、他の問いとの関連づけができていないことの現れであると考えられる。
- 4 小説の読解について、選択肢の問題や抜き出しの問題は、それがたとえ抽象的な表現を具体的に説明するものであっても、理由を問う問題であっても、概ね正答率が高い。文法の基礎である述語を問う問題は正答率が低かった。また、問六の主人公の様子から、その心情を読み取り説明する問題は、きわめて正答率が低い。主人公の様子と前後の流れとを結びつけて考えることができないか、無答率も高いことから、時間が不足したとも考えられる。
- 5 作文について、「勇気づけられたり、励まされたりした言葉」を取り上げて、「自分がどう変わったのか」ということを「体験に基づいて」述べていくものであり、これらのポイントをしっかりと押さえているか、また、原稿用紙の使い方等の条件を満たしているかが問われている。部分点の結果から見ると、0点が約25%であり、自分の考えをまとめ作文する力が身につけていない受検生が多いといえる。

社 会

- 1 地理的分野においては、基本的事項に関する知識や、地図の読み取りに関する基本的技能については身につけている。しかし、統計の正確な読み取りや、気候や農作物の生産地域などの地域的な分布の特徴について、思考・判断を問うような応用問題については、十分な力が身につけているとはいえない。学習した知識をもとに、総合的に考え、判断する能力の育成が必要と思われる。
- 2 歴史的分野においては、各時代の基本的な学習内容を問う問題についてはよくできていたが、語句を記入するなど確実な知識を問う問題においては、理解不足や無解答が目立った。各時代の歴史用語を正確に理解するとともに、歴史の流れを大きくとらえ、歴史を総合的・多面的に考える力の育成が必要と思われる。
- 3 公民的分野においては、基本的事項に関する問題についてはよくできていたが、憲法の条文であるとか、経済や国際社会の内容においては、正確な理解ができているとはいえない。社会の課題に対して、基本的な知識をもとに、思考し判断する力の育成が必要と思われる。
- 4 いずれの分野においても、社会的事象についての正確な理解とともに、総合的・多面的に考える力を育成するとともに、表現する能力の育成が必要である。

数 学

- 1 各学年・各分野の基礎的事項の定着を見る問題においてはおおむね正答率も高く、平素の学習の成果が表れていた。やや気になった点として、展開公式を使った同類項の計算や、容量を求めcm³をリットルに換算ができない生徒も見受けられた。
- 2 関数のグラフの基本的な性質はある程度理解できていたが、条件を的確に把握し、図形と関連づけて考察するような総合的な問題の正答率は低かった。
- 3 具体的な事象について、起こりうる場合を順序よく整理して考える問題では、やや正答率が低く、樹形図などを用いて事象を効率的に考察し、論理的に思考する力を高める必要がある。
- 4 具体的な操作を通して、図形についての直感的な見方や考え方を深め、条件を利用して事象を考察するような数学的な見方・考え方は、十分に身につけているとは言えない。数学的な推論の過程をとおして事象を捉え、総合的に活用する力を育成していく必要がある。
- 5 正答率からみると、問題1の後半で時間がかかり、後の大問を考える時間が不足したため、全体として、難易度がやや高くなったと思われる。

理 科

- 1 身近な自然の事物・現象についての基礎的・基本的事項の理解をみる設問については、平素の学習の成果が現れていた。今後も、広く全領域にわたって学習することが必要である。
- 2 全般的に、選択肢により解答する設問に比べ、記述により解答する設問では正答率が低かった。条件文を読み取って、説明、計算、作図する設問では的確に解答できていない者が目立ち、読解力、思考力及び表現力に課題が残った。
- 3 実験・観察・観測などにより得られたデータを読み取って考察したり、計算したりする設問では、正答率が低いばかりでなく、誤答率、無答率ともに高かった。観察・実験等で得た結果を処理し、総合的に考察して、自らの考えを導き出し、表現する力が身につけていないと考えられる。今後は、既習事項を関連付けながら、総合的に考察する力が必要である。
- 4 日常生活の中で驚いたり疑問に感じた現象について、調べたり考えたりする態度や能力を育成したり、平素の学習に実験・観察を可能な限り取り入れて、得られたデータを分析し、考察する習慣をつけるなど、探究的な学習を一層推進する必要がある。

英 語

- 1 聞き取り問題では、解答が文中に直接出てくる問題の正答率が高いが、解答となる部分に変化したり、英文を理解して計算を必要とする問題の正答率は低い傾向にある。また、聞き取る英文の後半に解答が出てくる問題の正答率は、前半の部分の問題の正答率よりも低く、リスニングに対する集中力が不足している。
- 2 表現力の問題において、日本語を英訳したり、英単語を並べかえる問題では正答率は5割弱である。文脈から考えて空欄に1語入れる問題では、文法事項（現在完了形）を考慮して解答する問題では正答率が低く、文法の運用面が弱い。自由英作文での無答率は2割弱あるが、部分点を与えられた者は5割を超え、また誤答率も15%台である。主題を把握して英作文をしており、また英語を書く意欲も高いことがわかる。
- 3 会話内容を把握する問題では、本文中から答えを直接見つける問題には強いが、内容を把握し自分の言葉で解答する問題での正答率が低い。前後の文脈を読み解き、必要な情報を自分の言葉でまとめる力が弱い傾向にあり、記述力を育成することが大切である。
- 4 物語文の問題では、会話文の問題と同様に、解答に必要な情報を正確に読み解く力が弱い傾向にあり、自分の言葉で表現する記述問題だけでなく、行為者や行為内容を変化させた選択肢から正答を選ぶ客観問題でも正答率は低かった。また、要約に関する空所補充問題でも、主題に係る部分については正答率が高いが、細かな情報を含む部分に係る問題になると正答率が下がる。細かな部分の読みの正確さが課題である。
- 5 英語に関して、今年度入試ではここ数年で平均点が最も低い。また、度数分布表は台形型になっており、学力の二極化を示す結果となった。